

奈良県地域結集型研究開発プログラムの概要について

平成21年10月22日共同会見配布資料

地域結集型研究開発プログラムの全体像

テーマ名：古都奈良の新世紀植物機能活用技術の開発

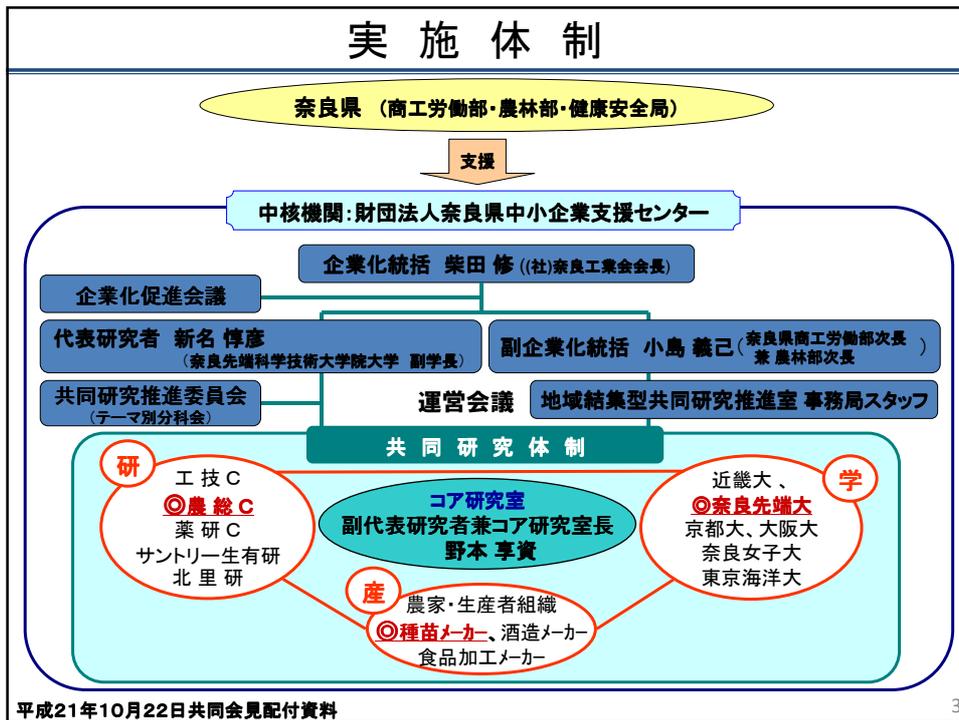
事業趣旨：奈良に緑のある植物素材をもとに産学官の共同研究を行い、成果を活かした新製品・新技術を創出し、地域産業の活性化を目指す。

事業期間：H18. 1～H22. 12



平成21年10月22日共同会見配布資料

実施体制



伝統野菜 「大和まな」について

大和野菜・21品目



大和丸なす

・H17より大和野菜の認定を開始

・H21年8月現在「伝統野菜」17品目



大和きくな



大和まな

・「こだわり野菜」4品目を認定



千筋みずな

<主な事業展開>

・大和野菜振興対策事業(H16～)

H16～17:大和野菜の認定、認知度向上のためのPR

H18～:販路開拓、取扱店舗の増加、産地育成支援

・「大和伝統野菜」調査推進事業(H21～)

大和伝統野菜について、過去・現在・未来に関する調査を実施



大和いも

平成21年10月22日共同会見配付資料

5

大和まな



- ・代表的な伝統野菜
- ・冬に甘味を増す
- ・均一な優良品種が不在
- ・抗炎症成分を含む



大和まなの
煮浸し

- ・栽培面積4ha 生産量60t(県調べ)
- ・主な産地:大和高田市、奈良市、宇陀市、五條市

※名称の表記について
伝統野菜の名称として用いる場合は、「まな」とひらがなで記し、研究テーマに関連して用いる場合は、「マナ」とカタカナで記している。

平成21年10月22日共同会見配付資料

6

共同研究の概要について

テーマ1-2 大和マナの抗炎症機能等の評価及び栽培・食品へ活用 テーマ全体の研究目標と研究体制

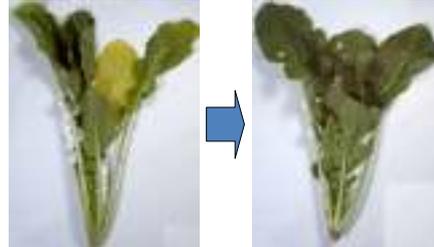


大和マナの課題と育種目標

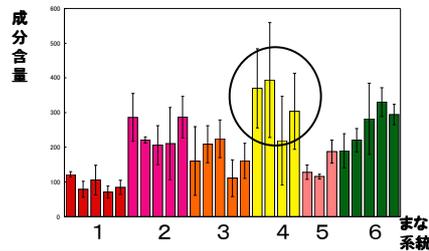
① 個体毎のバラツキが大きい(スーパー等で売れない) →均質、揃いがいい。



② 日持ちがしない(すぐ売り物にならなくなる。) →下葉が黄化しにくい。



③ 抗炎症の機能性成分含量が、系統によりまちまち(アピール度に欠ける。) →成分を多く含む。



平成21年10月22日共同会見配付資料

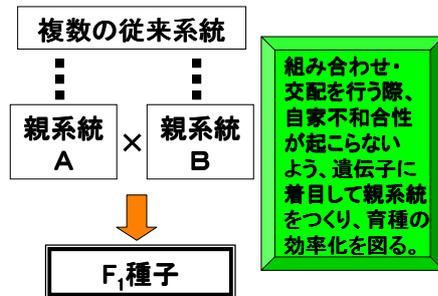
9

自家不和合性を利用したF₁品種の育種法

■ 優良品種としてのF₁をつくる。

F₁とは

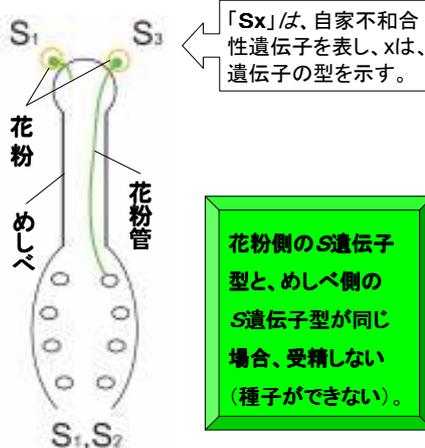
雑種第一世代を意味する。①個体間のバラツキが少なく、②成長が早く、③一斉に発芽し一斉に収穫できるという特徴をもっている。



■ アブラナ科植物の自家不和合性

自家不和合性とは

自家受精を防ぐ遺伝的性質



平成21年10月22日共同会見配付資料

10

自家不和合性を利用したF₁品種の育種過程

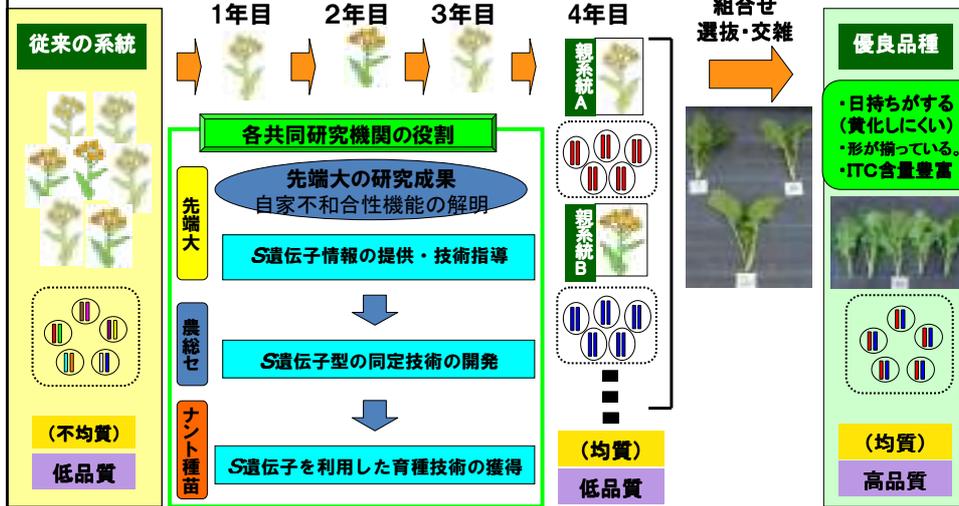
4世代に渡り、交配を繰り返し、親系統を用意する

親系統を掛合せて最適なF₁を得る

【現状】

共同研究

【新品種】



平成21年10月22日共同会見配付資料

11

「大和まな」新品種の普及について

平成21年10月22日共同会見配付資料

12

大和まな新品種普及の推進方策

1. 生産面積の拡大

現状: 4ha→10ha(H23年度目標)

- ・軟弱野菜農家への普及
→周年生産による面積拡大
- ・直売所向け生産者への拡大
→講習会を通じたF₁品種の紹介



夏用F₁品種

2. 加工・業務用への用途拡大

加工用原料、業務需要への対応推進

- ・低コスト生産技術の確立
- ・加工食品開発の支援
- ・飲食業者等、業務需要への支援

3. 消費者の拡大

消費者へのPR

- ・量販店、直売所店頭でのレシピの紹介、試食販売
- ・教育機関と連携した食育活動